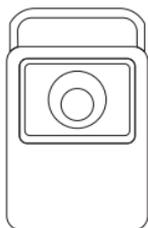
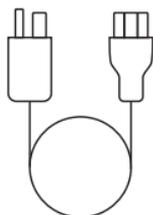


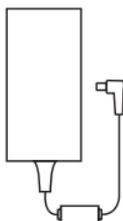
## パッケージ内容



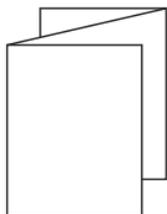
1



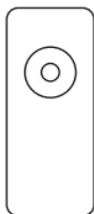
2



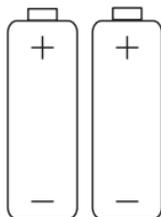
3



4



5

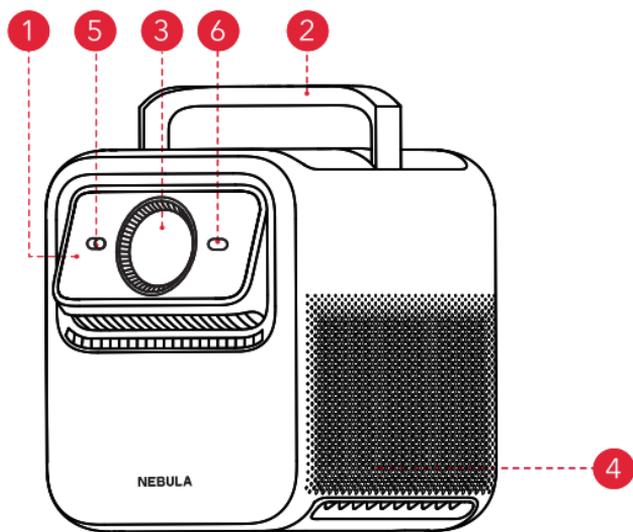


6

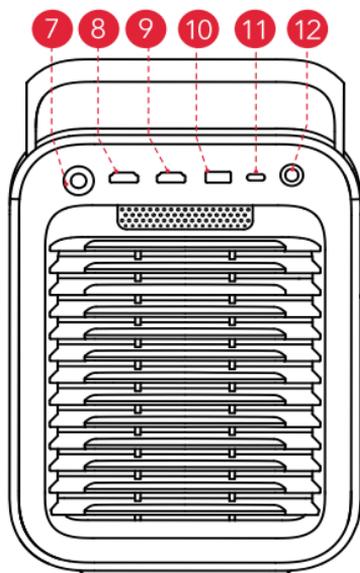
1	NEBULA X1	4	クイックスタートガイド
2	電源コード	5	リモコン
3	AC アダプタ	6	単 4 形乾電池 (x2)

# 各部分の名称

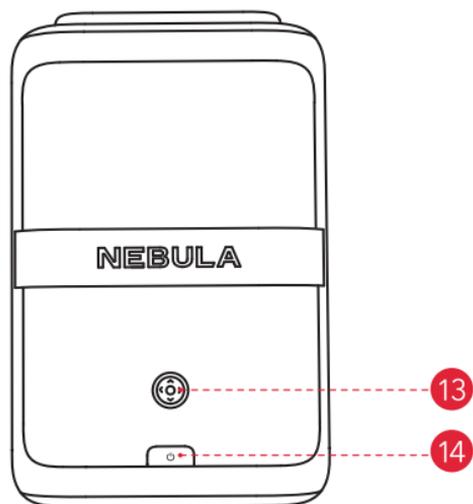
## 1. 正面図



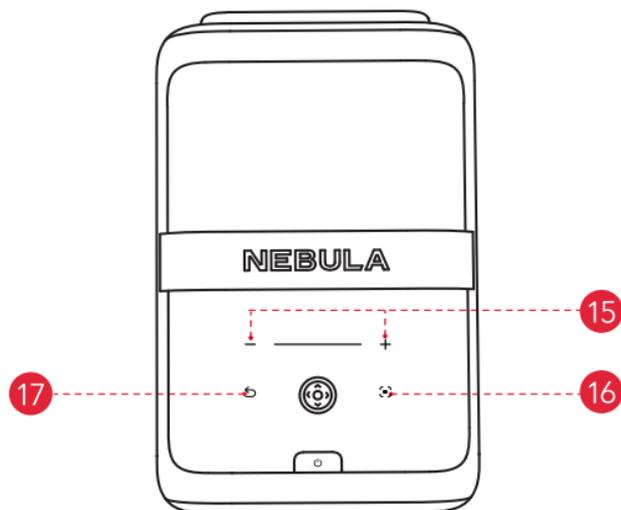
## 2. 背面図



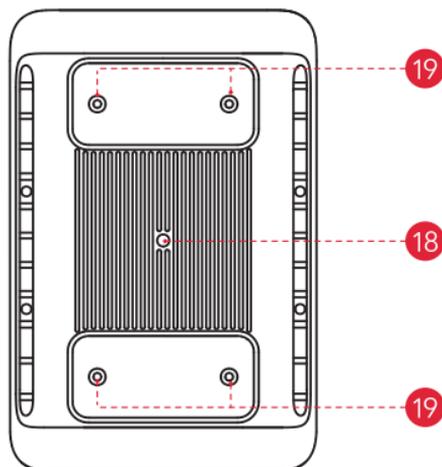
### 3. 上面図



 本製品の電源がオンになると、上面部のタッチパネルが点灯します。

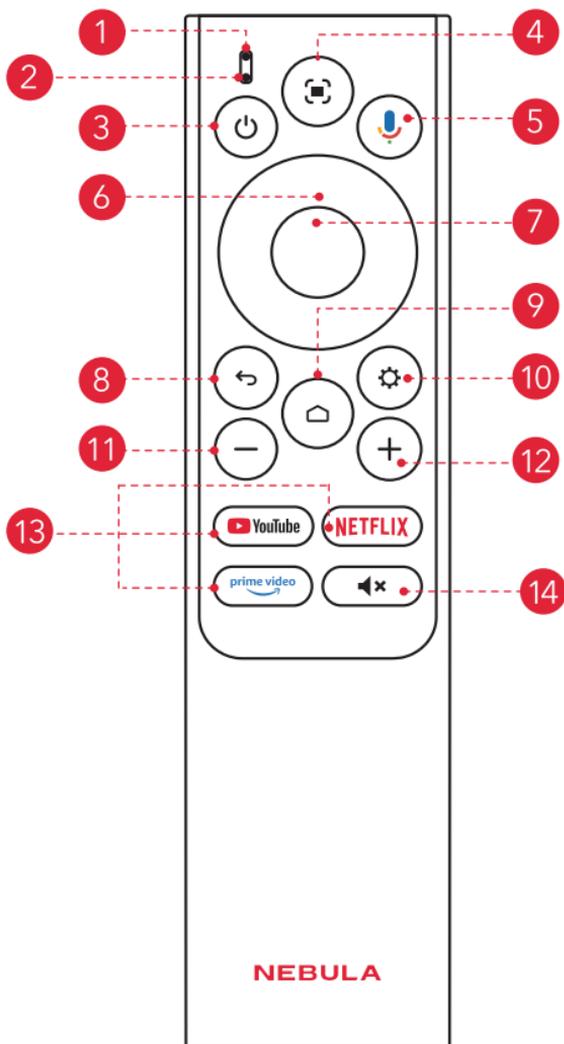


## 4. 底面図



<b>1</b>	電動マイクロジナル • 画像の位置を自動調整		
<b>2</b>	ハンドル • 持ち運び用に使用	<b>11</b>	USB-C ポート • 対応機器と接続
<b>3</b>	レンズ • 高品質な画像を投影	<b>12</b>	光デジタル端子 • 外部オーディオシステム用
<b>4</b>	スピーカー • クリアな音声をお届け	<b>13</b>	選択ボタン • メニュー操作
<b>5</b>	照度センサーおよび画像センサー • 周囲の明るさを検知し、明るさを調整	<b>14</b>	電源ボタン • プロジェクターの電源をオン/オフ、スタンバイモードの切り替え
<b>6</b>	ToF センサー • 距離を測定して、正確に画像を調整	<b>15</b>	音量調整ボタン • 音量を調整
<b>7</b>	DC 入力ポート • 電源に接続	<b>16</b>	自動イメージ調整 • 画像を自動調整
<b>8</b>	HDMI 1 ポート • HDMI 出力を持つ再生機器と接続	<b>17</b>	戻るボタン • 前のメニューに戻る
<b>9</b>	HDMI 2/eARC ポート • HDMI 出力を持つ再生機器に接続し、音声出力	<b>18</b>	三脚用ソケット • 三脚ソケットは、三脚スタンド、天井マウントなどを接続するために使用できません。
<b>10</b>	USB-A ポート • USB ドライブに接続	<b>19</b>	天井取り付け用 M4 ソケット (x4) (推奨最小ボルト：全長 6mm) • 注意：天井設置には、4 つの M4 取り付け穴をすべて使用してください。

## 5. リモコン



1 ステータスインジケータ

2 マイク

3 電源のオン/オフ/スタンバイの切り替え

- 1回押してスタンバイモードに入ります。長押しで電源オフ、再起動、スリープ、または Bluetooth スピーカーモードへの切り替えを行います。

- 4 自動イメージ調整
  - ・ 1 回押してオートフォーカスを起動します。
  - ・ 長押しすると、手動フォーカス、高さ調整 & ズーム、全自動スクリーン調整、スクリーンフィットを手動で調整できるダッシュボードへ移動します。
- 5 Google アシスタント
  - ・ 長押しして Google アシスタントに話しかける
- 6 ナビゲーション
  - ・ 画面上的カーソルをコントロール
- 7 決定
  - ・ 決定 / 一時停止 / 再開
- 8 戻る
  - ・ 前のページに戻る
- 9 ホーム
  - ・ 1 回押してホーム画面に戻る。長押しして設定を開く
- 10 設定
  - ・ 設定を開く
- 11 音量ダウン
  - ・ 音量を下げる
- 12 音量アップ
  - ・ 音量を上げる
- 13 スตรีミングアプリ
  - ・ YouTube / Netflix / Prime Video を開く
- 14 ミュート
  - ・ ミュート / ミュート解除

## はじめに

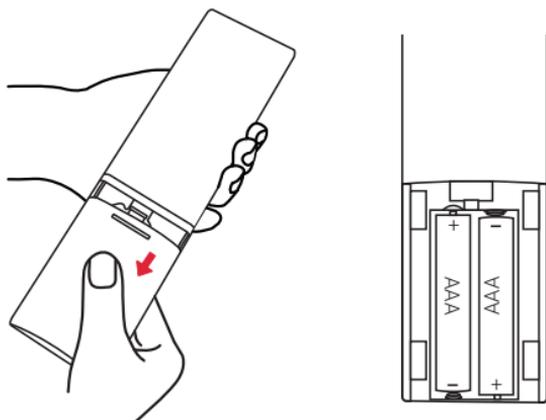
### 1. 配置位置

プロジェクターを、投影面の前の安定した平らな場所に置きます。より綺麗に投影するには、白く平らな壁もしくはスクリーンに投影してください。

このプロジェクターには光学ズームレンズが搭載されており、プロジェクターのスローレシオを 0.9:1 から 1.5:1 まで調整できます。

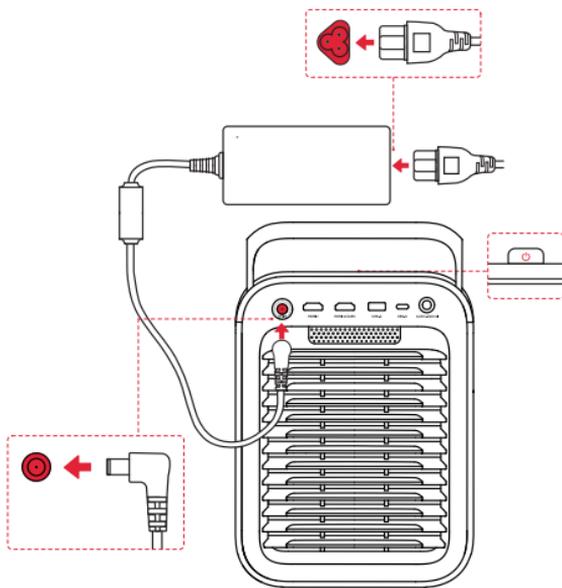
投影距離			
60"	120"	150"	300"
1.2 ~ 2.0 m	2.4 ~ 4.0 m	3.0 ~ 5.0 m	6.0 ~ 10 m

## 2. リモコンを準備する



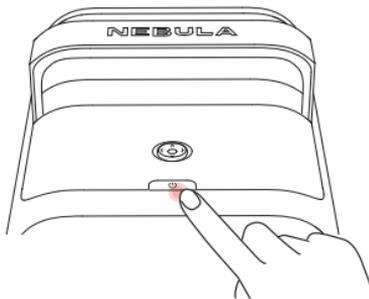
- ① 初めて使用する前に、電池ケースを下にスライドして開きます。
- ② 必ずプラスとマイナスが合うように単4型電池を2本挿入します。

## 3. 電源に接続する



コードをアダプターに差し込みます。次にプロジェクターを電源に接続します。電源に正常に接続されると、プロジェクターの電源ボタンが赤色に点灯します。

## 4. 電源のオン / オフ



- 電源オン: 電源ボタンを1回押します。



プロジェクターの電源が入ると、電源ボタンは白色に点灯します。

### • 電源オフ:

- ① 電源ボタンを3秒間長押し、メニュー画面が表示されるまでお待ちください。
  - ② メニュー画面の [電源をオフ] を選択するか、15秒後に自動で電源がオフになるまで待ちます。
- スタンバイモード: 電源ボタンを1回押してスタンバイモードに入ります。

## 5. オートフォーカスおよび自動台形補正

- ① プロジェクターの電源を入れたら、全自動スクリーン調整が自動的に作動します。スクリーンが検出された場合は、画像は自動的にスクリーンに合わせて調整されます。スクリーンが検出されない場合は、自動的に最適なエリアに画像が投影されます。その後自動画像補正を行います。(注: プロジェクターを移動しない限り、次回以降の起動時に画像補正は起動しません。)
- ② プロジェクターがオンの状態で、リモコンの [自動イメージ調整] ボタンを押すと、自動フォーカスと自動台形補正が作動します。
- ③ プロジェクターが電源オンのまま移動されると、自動フォーカスおよび自動台形補正が自動的に作動します。

自動フォーカスおよび自動台形補正は [設定] > [プロジェクター] > [オートメーション] でそれぞれトリガーされるタイミングを選択することができます。

## 6. Wi-Fi ネットワーク

以下のいずれかの方法で Wi-Fi ネットワークと接続してください。

- ① プロジェクターの [設定] > [ネットワークとインターネット] > Wi-Fi をオンにします。
- ② Nebula Connect アプリを開き、[マイデバイス] > [ツール] > [Wi-Fi]

## 7.Nebula Connect アプリ



本製品の操作にあたっては Nebula Connect アプリをインストールすることをおすすめします。



Nebula Connect アプリを使用して、プロジェクターを簡単に操作できます。

## 本製品の使用方法

### 1. アプリの選択

ワイヤレスネットワークに接続されると、オンラインサービスへのアクセス、動画や音楽などのコンテンツの再生、およびインターネットの利用が可能になります。GooglePlay から追加のアプリをダウンロードできます。

- ① ホーム画面アイコンを押してホーム画面にアクセスします。
- ② [アプリ]>[アプリとゲームを検索]を選択します。

### 2. 音声アシスタント

リモコンの Google アシスタントボタンを押して、Google アシスタントに話しかけて音声で操作することができます。

### 3. ワイヤレス画面ミラーリング

iOS、macOS、Android、Windows 機器から本製品に映画、ゲーム、音楽、スクリーンをワイヤレスでキャストすることができます。

## 3.1 アプリ内コンテンツをキャスト

YouTube や Prime Video など、Chromecast に対応するアプリからコンテンツをキャストできます。

- ① デバイスとプロジェクターを同じワイヤレスネットワークに接続します。
- ② デバイスでストリーミングアプリを開きます。
- ③ ビデオを再生し、ビデオ画面でキャストアイコンをタップします。
- ④ **NEBULA X1** を選択して接続します。プロジェクターは、デバイスのビデオ画面をミラーリングします。



- アプリ内コンテンツをミラーリングするには、スマートフォンとプロジェクターの両方で同じストリーミングサービスアカウントを使用する必要があります。
- コンテンツによっては、著作権上の制限により、画面ミラーリングを利用できない場合があります。同じアプリを本製品にインストールしてそのアプリからコンテンツを再生することはできません。

## 3.2 デバイスの画面のキャスト

デバイスの画面全体をプロジェクターにキャストできます。まずは、NEBULA X1 とお使いの機器が同じ Wi-Fi ネットワークに接続されていることを確認してください。

**iOS 搭載機器の場合：**

- ① プロジェクターに NEBULA Cast アプリをインストールしてください。
- ② NEBULA Cast アプリを開き、画面の指示に従って操作を完了します。
- ③ ご使用中の機器のコントロールセンターを開き、**[画面ミラーリングアイコン]** をタップします。
- ④ デバイス一覧から「**NEBULA X1**」をタップします。

**Android 搭載機器の場合：**

- ① Google Home アプリを開き、「**NEBULA X1**」を選択します。
- ② ページ上で **[画面をキャスト]** をタップします。

## 4. Bluetooth スピーカーモード

本製品は、Bluetooth スピーカーとしてご使用いただくことができます。

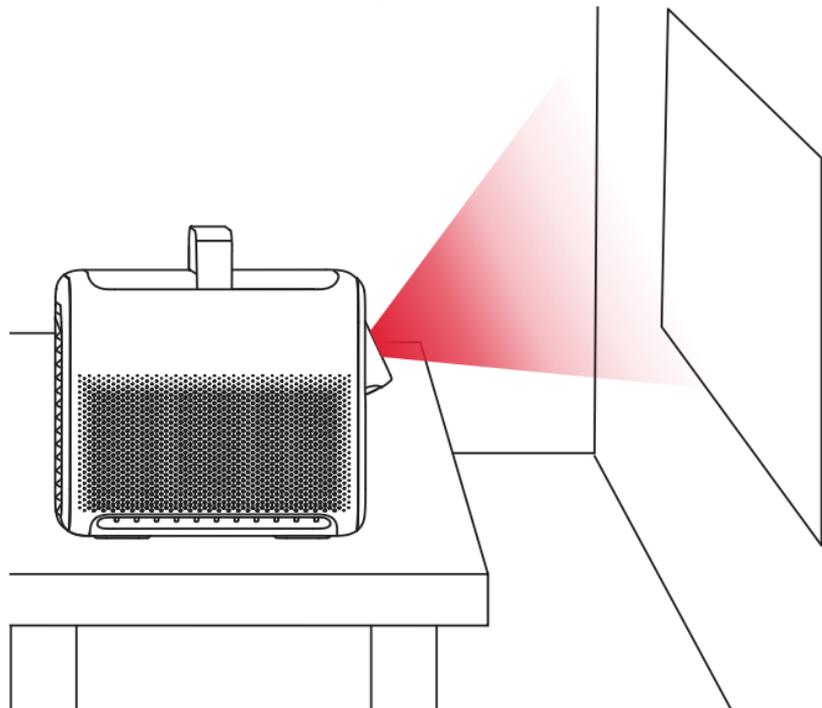
- ① ホーム画面で、**[設定] > [ディスプレイと音声] > [音声] > [Bluetooth スピーカーモードをオンにする]** を選択します。または、リモコンの設定ボタンを 1 回押すと開かれるダッシュボードから **[サウンド] > [Bluetooth スピーカーモードをオンにする]** を選択してください。
- ② お使いのスマートフォンの Bluetooth を有効にし、「**NEBULA X1**」を選択して接続します。

## 5. リモコンと Bluetooth アクセサリーのペアリング

プロジェクターにスピーカー、ヘッドホン、キーボードなどの Bluetooth アクセサリーを接続できます。

- ① リモコンをペアリングするには、「**すべての設定] > [リモコンとアクセサリー] > [公式アクセサリーをさらにペアリング] > [Nebula リモコン]** に進みます。他の Bluetooth アクセサリーをペアリングするには、「**すべての設定] > [リモコンとアクセサリー] > [アクセサリーをペアリング]**」に進みます。
- ② リモコンまたは Bluetooth アクセサリーをペアリングモードにしてください。
- ③ 接続したいデバイスを選択してください。

## 6. 電動マイクロジンバルの使用法



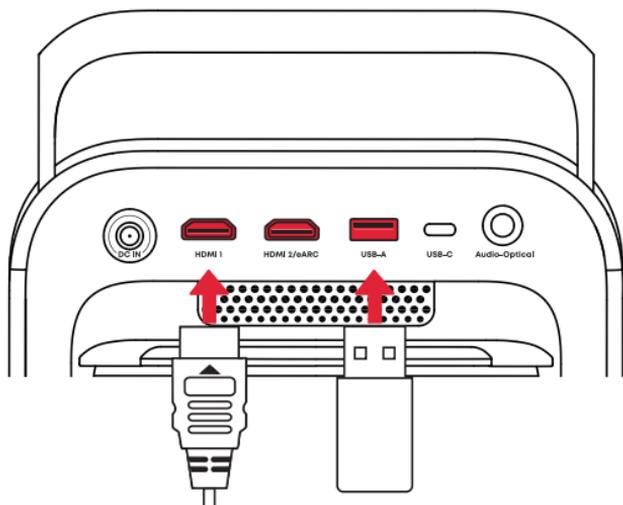
内蔵の電動マイクロジンバルは、スクリーンフィットおよび全自動スクリーン調整中に投影された画像の位置を自動的に調整します。

縦方向の画像を正確に調整するには、**[設定]>[プロジェクター]>[高さ調整&ズーム]**で手動で調整できます。



- 電動マイクロジンバルを手動で押したり調整したりしないでください。また、操作中はマイクロジンバルに指を近づけないでください。
- 電動マイクロジンバルは最大 25 度まで上向きに傾けることができ、最適な投影角度を実現できます。

## 7.HDMI / USB 機器から再生する



本製品は、TVスティック、TVボックス、DVDプレーヤー、セットトップボックス (STB)、ゲーム機、その他の機器などのさまざまな HDMI 再生機器との接続に対応しています。

USB ストレージ機器 (別売り) に保存されているミュージック、ビデオ、画像を楽しむこともできます。

USB メモリに保存してある動画を再生するには、まずファイルマネージャーアプリをインストールする必要があります。「Nebula File Manager」を検索してインストールしてください。ファイルマネージャーアプリがインストールされていない場合は、プロジェクターは USB メモリ内のファイルを読み取ることができません。

USB メモリ内の動画を再生するには、USB ドライブを FAT、FAT32 または NTFS 形式でフォーマットした上で、別途 VLC などのメディアプレイヤーのインストールが必要です。



### ① HDMI デバイスおよびスピーカー / サウンドバーと接続する場合

- 本製品に HDMI 再生機器 (例:ゲーム機、TV スティック) を接続して音声出力をする必要がある場合は、HDMI2/eARC ポートに接続してください。これを有効にするには、サウンドシステムの設定を eARC モードに設定する必要がある場合があります。

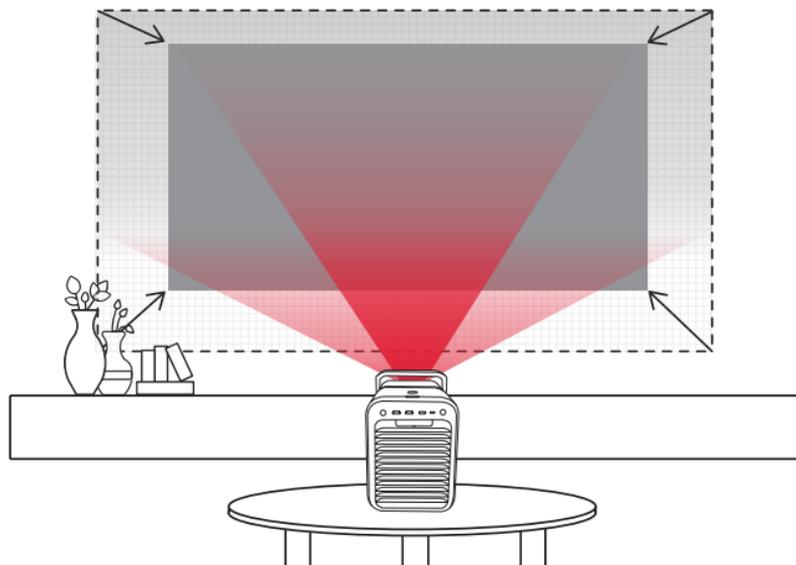
### ② AVR (オーディオ / ビデオレシーバー) セットアップ

- AVR (オーディオビジュアルレシーバー) を使用する場合は、HDMI 再生機器 (例:ゲーム機、Apple TV など) を AVR に直接接続してください。AVR が音声信号を処理してスピーカーへ出力し、映像信号は AVR を通じてプロジェクターへ出力されます。この接続方法により、音声と映像の同期が最適に保たれます。

### ③ HDMI 機器の切り替え

- 本製品は 2 つの HDMI 機器を同時に接続することが可能です。機器を切り替えるには **[設定]** > **[チャンネルと入力]** > **[入力]** に移動すると、HDMI 1 と HDMI 2 を簡単に切り替えることができます。

## 8. 全自動スクリーン調整とスクリーンメモリー



### 全自動スクリーン調整

プロジェクターは投影面をスキャンし、画面のサイズと位置を自動的に調整します。

スクリーンが検出されると、最適な結果を得るために画面サイズと位置を自動的に調整します。スクリーンが検出されない場合、プロジェクターは最適な投影エリアを自動的に識別し、それに応じて画像を補正します。

このセットアップは、**[すべての設定]>[プロジェクター]>[全自動スクリーン調整]**に移動することでカスタマイズできます。

### スクリーンメモリー

画面サイズ、画面位置、壁の色の設定を保存し、プロジェクターが同じような位置に設置されたときに設定を復元します。プロジェクターを別の場所に移動し、その後元の場所に戻した場合は、**[設定]>[プロジェクター]>[スクリーンメモリー]**に移動し、保存されたスペースを選択することで、すべての設定を元の状態に復元できます。



- ①より綺麗に投影するには、本製品を元の位置に近い場所に配置してください。
- ②全自動スクリーン調整およびスクリーンメモリーを使用する際は、本製品を投影面から4メートル以内に配置してください。

## 9. 高さ調整 & ズーム

[設定]>[プロジェクター]>[高さ調整&ズーム]で画面の指示に従って設定を行ってください。

- ① [+/-] ボタンで投影された画像が希望のサイズになるまでズームインまたはズームアウトします。
- ② ナビゲーションボタンを使用して、画像を希望の位置まで移動します。
- ③ 調整後に画像が長方形でない場合は、[確定] ボタンを押して自動台形補正を実行してください。より正確な台形補正を行うには、リモコンの自動イメージ調整ボタンを押して手動で台形補正を行ってください。

## 10.3D モード

本製品は、サイド・バイ・サイド、トップ・アンド・ボトム、フレームパッキングの3つの形式で3Dビデオの投影をサポートしています。

この機能を有効にするには、3Dビデオを再生しながら、[設定]>[ディスプレイと音声]>[画像]>[3Dモード]でモードを選択してください。DLP Link 3Dメガネ（別売）を着用して3D効果をお楽しみください。



- 3Dモードは、3D動画を再生開始後にのみ有効にすることができます。
- フレームパッキング形式で映像をお楽しみいただくには、外部のBlu-ray 3Dプレーヤーをご使用ください（プレーヤーの設定で3Dオプションが有効になっていることを確認してください）。正規のBlu-ray 3Dディスクを3Dモードで再生し、プロジェクターの3Dモード設定で「フレームパッキング」形式を選択してください。

## 設定

設定メニューで、様々な機能の詳細を設定できます。



このセクションに表示されているすべての項目は説明用のみ使用されており、ソフトウェアの更新により変更される場合があります。最新かつ正確な情報については、実際の画面をご確認ください。

## 1. プロジェクター

ホーム画面で、[設定]>[プロジェクター]を選択します。

[全自動スクリーン調整]	プロジェクターは投影面をスキャンし、画面のサイズと位置を自動的に調整します。
[スクリーンメモリー]	現在の画面サイズ、位置、壁色適応設定を保存します。
[フォーカス]	<ul style="list-style-type: none"><li>• [自動フォーカスを開始]: 画像が自動的に鮮明になります。</li><li>• [手動フォーカスを実行]: 手動によるフォーカスの補正を有効にします。</li></ul>
[台形補正]	<ul style="list-style-type: none"><li>• [自動台形補正を開始]: 画像を自動的に 16:9 の長方形に補正します。</li><li>• [自動障害物回避]: 障害物を回避しながら最適な場所へ映像を映し出します。</li><li>• [手動で台形補正を実行]: 手動で台形補正を行います。</li></ul>

[自動スクリーンフィット]	<ul style="list-style-type: none"> <li>•[自動スクリーンフィットを開始]:スクリーンを自動検出し、枠内に収まるように自動調整します。</li> <li>•[スクリーンフィットを手動で実行]:手動のスクリーンフィットにより台形補正が可能です。</li> </ul>
[高さ調整&ズーム]	画面のサイズと位置を手動で調整します。
[壁色適応]	投影面の色に適応し、映画鑑賞時には、より正確な色彩を実現します。
[アイガード]	誰かが投影エリアに入ると（壁から3メートル以内）、強い光による目の損傷を防ぐために明るさが自動的に減少します。
[オートメーション]	<ul style="list-style-type: none"> <li>•[リモートでトリガー]:自動イメージ調整ボタンを1回押した際に実行される補正を選択できます。</li> <li>•[起動時にトリガー]:プロジェクターの電源がオンになった際に実行される補正を選択できます。</li> <li>•[動作後にトリガー]:プロジェクターが電源オンの状態で移動させた際に実行される補正を選択できます。</li> </ul>
[詳細設定]	<p>[投影モード]:プロジェクターの設置方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•[自動]:プロジェクターが反転しているかどうかを自動的に検出します。これらのオプションを自動的に切り替えます。</li> <li>•[前面]:本製品を投影面の前に置きます。</li> <li>•[前面天井]:本製品を投影面の前に天井から逆さまに吊り下げます。画像が180°回転します。</li> <li>•[背面]:本製品を投影面の後ろに置きます。</li> <li>•[背面天井]:本製品を投影面の後ろに天井から逆さまに吊り下げます。画像は180度回転し、左右が反転します。</li> </ul> <p>[通知表示設定]:ポップアップ通知のオン/オフを切り替えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•[投影に関するエラー通知]:問題が検出された時に通知を受信します。</li> <li>•[手動補正に関するポップアップ]:自動フォーカス、自動台形補正などの画像補正後にポップアップが表示されます。</li> </ul> <p>[起動とシャットダウン]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•[起動時とシャットダウン時の自動ピッチ]:プロジェクターの起動時と終了時にピッチ角度を自動的に調整します。</li> </ul>
	<p>[過熱保護]:近距離の障害物を検知し、過熱を防ぐために自動で明るさを調整します。</p>

[ディスプレイと音声]

[画像]

[輝度]: プロジェクターのディスプレイの明るさを調整します。

[環境光適応]: 周囲の明るさや画面サイズに応じて、明るさとコントラストを自動調整します。

[ダイナミックコントラスト]: コントラストを大幅に調整し、画像の鮮明度を向上します。

[画像モード]: 本製品にはプリセットされた画像モードがいくつか用意されているため、環境や入力ソースに合わせていずれかのモードを選択できます。

•[Nebula Master]: 臨場感あふれる、リアルで鮮やかなビジュアルをお楽しみいただけます。

•[標準]: 暖色と寒色のバランスをとって自然な色を保ちます。

•[ピピッド]: ストリーミング配信に最適な、鮮やかな彩度になります。

•[スポーツ]: スポーツ観戦に最適な、より速い反応速度になります。

•[映画]: 映画鑑賞に最適な色を再現します。

•[ゲーム]: ビデオゲームをプレイしやすいように輝度を高め、応答時間を短くします。

[会議]: 輝度は明るくなりますが、色の再現度が低くなる可能性があります。

•[3Dモード]: 3D映像コンテンツのモード選択ができます。

[ブラックポイント]: コントラスト調整や陰影調整をします。

[コントラスト]: 画像の明暗部分の差を調整します。

[彩度]: 画像の色の鮮やかさを調整します。

[色調]: 色調を調整します。

[鮮明度]: 鮮明度を調整します。

[MEMC]: スムーズな動きを実現します。

•[詳細設定]: 詳細設定をカスタマイズして、画質を向上させます。

[色温度]: 暖色と寒色を調整します。

[DNR]: デジタルノイズを低減します。

[MPEG NR]: 圧縮アーティファクトを低減します。

[DI フィルムモード]: 映画のシーンの切り替えをよりスムーズにします。

[ガンマ]: 中間色調を調整することで、明るさとコントラストも自動的に調整します。

[色空間]: 適切なカラースペースを選択します。

[カラーチューナー]: 色を調整します。

[11ポイント ホワイト バランス補正]: より正確な色になるよう調整します。

	<p><b>[音声]</b>  <b>[ムービー]:</b> 映画観賞用にサラウンドサウンドのリスニング体験を作り出します。  <b>[音楽]:</b> 音楽を聴くために高音域を強調します。  <b>[アウトドア]:</b> 屋外でオーディオ/ビデオを再生するために音量を上げます。  <b>[カスタム]:</b> バランス、低音域、高音域などのオーディオ設定を手動で定義します。  <b>[Bluetooth スピーカーモードをオンにする]:</b> プロジェクターを Bluetooth スピーカーとして使用できるようにします。  <b>[スピーカー遅延]:</b> サウンドを映像と同期させるために、操作ごとにサウンドの遅延を 10 ミリ秒ずつ調整します。  <b>[エキスパート設定]:</b> 詳細設定をカスタマイズして、音質を向上させます。  •eARC：音声出力をする必要がある場合は、eARC ポートに接続してください。</p>
	<p><b>音声出力</b>  <b>[自動]:</b> 最適なオーディオ出力モードを自動的に選択します。  <b>[バイパス]:</b> 接続された機器がデコードできるように、処理せずにデジタルオーディオ信号を通過させます。  <b>[PCM]:</b> PCM 形式でオーディオを出力します。  <b>[Dolby Digital Plus]:</b> ドルビーデジタルプラス形式でオーディオを出力します。  <b>[Dolby Digital]:</b> ドルビーデジタルフォーマットでオーディオを出力します。  <b>[デジタル出力の遅延]:</b> サウンドと映像を同期させるために、デジタルオーディオ出力の遅延を調整します。</p>

## 2. システム

ホーム画面で、**[設定]>[プロジェクター]**を選択します。

<b>[デバイス情報]</b>	製品情報の確認やシステムの更新、本製品のリセット、本製品の名前変更を行います。
<b>[日付と時刻]</b>	日付と時刻の自動設定を有効/無効にします。
<b>[言語]</b>	日付と時刻を手動で設定するか、タイムゾーンを選択するか、時刻形式を設定します。
<b>[キーボード]</b>	キーボードを確認および管理します。
<b>[ストレージ]</b>	デバイスのストレージを確認し、空き容量を増やす
<b>[背景モード]</b>	Google フォトの写真をスライドショーで表示したり、天気や時間を表示するように設定できます。
<b>[電源と節電設定]</b>	自動スリープ設定を変更したり、電源オンの動作を選択したり、現在のディスプレイをオフにしたり、信号が利用できない時の自動電源オフの時間を設定したりします。
<b>[キャスト]</b>	Android のスマートフォン、タブレット、その他のデバイスからプロジェクターにコンテンツをキャストするための設定。

### 3. その他

ホーム画面で[設定]を選択し、その他の設定オプションを表示します。

[ユーザー補助]	字幕やテキスト読み上げなど、ユーザー補助に関する設定を変更できます。
[アカウントとプロフィール]	ログインして Google TV を最大限に活用します。
[プライバシー]	プライバシー設定をカスタマイズします。
[リモコンとアクセサリ]	ペアリング対象のアクセサリ (Bluetooth スピーカー、リモコンなど) を検索します。 Bluetooth の有効 / 無効の切り替え : 無効にすると Google アシスタントなどが使用できなくなります。
[ヘルプとフィードバック]	プロジェクターに関するフィードバックや、その他の意見を送信します。

## システムの更新

本製品の最新の機能をご利用いただくには、必要に応じてファームウェアの更新を行い、システムを最新の状態にさせていただくことをお勧めします。

システムをアップデートするには、**[設定]>[システム]>[デバイス情報]>[システムアップデート]**に移動します。

## トラブルシューティング

① 本製品の充電ができない場合

- 本製品は充電式ではありません。AC アダプターをご使用ください。

② Wi-Fi ネットワークに接続できない場合

- プロジェクターをルーターから 5m 以内の場所に配置し、再接続してみてください。
- ルーターを 2.4GHz または 5GHz に設定して、再試行してください。
- プロジェクターとルーターを再起動して、再試行してください。
- 別の Wi-Fi ネットワークまたはスマートフォンのテザリングをお試しください。

③ 画像がぼやけている場合

- カメラ /ToF センサーが遮られたり汚れたりしていないことを確認してください。
- プロジェクターを少し動かすか、リモコンのオートフォーカスポタンを押して、オートフォーカスを起動します。
- フォーカスを手動で調整するには、**[設定]>[プロジェクター]>[フォーカス設定]>[手動フォーカス補正]**に移動し、リモコンの左右のボタンを使用します。
- 必要に応じて、投写角度や投映方向、プロジェクターの高さを調整してください。
- オートフォーカスが正しく機能するためには、プロジェクターとスクリーンの距離を 1.5 ~ 4 メートルの間にする必要があります。

④ 自動台形補正が失敗した場合

- カメラ /ToF センサーが遮られたり汚れたりしていないことを確認してください。
- 最適な自動台形補正距離は 1.0 ~ 4.0m、水平 ± 30° @3m/ ± 10° @4m です。

#### ⑤ 自動スクリーンフィットに失敗した場合

- 投影しようとしているスクリーンが、黒い縁で囲まれた長方形型であることを確認してください。
- スクリーンの色が、枠線と反対色であることを確認してください。黒に近い色のスクリーンを使用しないようにしてください。
- スクリーンとプロジェクターの間の距離が4m以内であることを確認してください。
- スクリーン枠の幅が5mm以上であることを確認してください。
- 投影された画像がスクリーン全体を覆うようにしてください。
- スクリーンサイズが投影エリアより少なくとも10%大きいことを確認してください。
- 中央グリッドがスクリーン内にあり、遮られていないことを確認してください。
- 自動スクリーンフィットに失敗した場合は、**[設定]>[プロジェクター]>[台形補正]>[手動台形補正を実行]** から手動で台形補正を行うことができます。

#### ⑥ アイガードに失敗した場合

- カメラ /ToF センサーが遮られたり汚れたりしていないことを確認してください。
- アイガード機能は、10cm～4mの距離が最も効果的に機能します。
- **[設定]>[プロジェクター]>[アイガード]** に移動し、この機能が有効になっているか確認してください。

#### ⑦ 壁色適応に失敗した場合

- カメラ /ToF センサーが遮られたり汚れたりしていないことを確認してください。
- 明るい色の壁 (色温度 3500K～15000K、色座標 0.45 以内) に投影しているか確認してください。

#### ⑧ 「HDMI 信号なし」と表示される場合

- 別の HDMI ケーブルを使用してください。
- プロジェクターを別の HDMI 再生機器に接続し、問題が解決するか確認してください。
- HDMI 再生機器を HDMI ケーブルでテレビに接続し、機器やケーブルに不具合がないか確認してください。
- HDMI 再生機器の出力解像度 / 周波数をプロジェクターと同じになるように調整してください。

#### ⑨ 外部スピーカーから音が出ない場合

- プロジェクターがミュートモードに設定されているか確認してください。
- プロジェクターの「HDMI2/eARC」ポートまたは Bluetooth が外部オーディオデバイスに接続されているか確認してください。

#### ⑩ Wi-Fi なしで動画を再生する方法

動画を FAT, FAT32, NTFS のいずれかの形式で USB ドライブにダウンロードします。詳しい手順については、[HDMI/USB デバイスからのビデオ再生をご参照ください。](#)

## 製品の仕様

仕様は予告なく変更されることがあります。

入力	DC-IN 22V $\pm$ 10.9A
消費電力	240W
スタンバイ時消費電力	< 0.5W
明るさ	3,500 ANSI ルーメン
解像度	3840 × 2160
光源	トリプルレーザー
色域	Rec. 110% 2020
ネイティブコントラスト比	5,000:1
アスペクト比	16:9
スローレシオ	0.9:1 から 1.5:1
スピーカー出力	15W × 2 + 5W × 2
ノイズ	1m で 26dB
通信方式	5.1
USB メモリのファイルシステム	FAT、FAT32、NTFS
動作温度	0-35°C

## 商標

**HDMI**<sup>TM</sup>  
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国における HDMI licensing LLC の商標または登録商標です。

**Dolby** **Dolby**  
AUDIO VISION

Dolby、Dolby Audio、Dolby Vision、およびダブル D 記号は、Dolby Laboratories Licensing Corporation の商標です。Dolby Laboratories からの実施権に基づき製造されています。未発表の機密作品。Copyright© 1992–2024 Dolby Laboratories. All rights reserved.

**Bluetooth**<sup>®</sup>

Bluetooth<sup>®</sup> のワードマークおよびロゴは Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、Anker Innovations Limited によるこれらのマークの使用はライセンスに基づいています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。